

令和元年度 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会
第3回会議 議事要旨

- 日時 令和元年(2019年)12月16日(月)18時30分～19時40分
- 場所 第二庁舎3階大会議室
- 出席者 高橋委員、石川委員、山下委員、池田委員、古川委員
計5名
- 事務局 都市経営部：津田次長
都市経営部経営計画課：寺田、坂本、田中、島、上田
- 案件 1. 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)の諮問について
2. 策定スケジュールについて
3. 第2期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
(1)第2期総合戦略の考え方について
(2)第2期総合戦略の重要目標達成指標(KGI)及び重要業績評価指標(KPI)(案)について
4. その他
- 資料 【資料1】委員名簿
【資料2】策定スケジュールについて
【資料3】第2期豊中市総合戦略の考え方について
【資料4】第1期総合戦略と第2期総合戦略のKPIの対応表
【資料5】第2期総合戦略の基本目標の補足資料となる基本的方向性(施策の方向性)・具体的施策(主な取組み)の達成の進捗状況を測る指標(KPI案)
【参考1】第4次豊中市総合計画前期基本計画(本編)
【参考2】第1期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 会議録 下記のとおり

●開会

●成立要件の確認

事務局

本委員会規則第6条第2項の規定により、会議の成立には委員の過半数の出席が必要です。本日は委員総数8名中、5名の委員の出席をいただいておりますので、成立要件を満たしております。

●資料について

事務局

(資料について説明)

本日追加資料として、豊中市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」と「総合戦略」【概要版】を配布しています。

●委員紹介など

事務局

今回から新しく委員になられた皆さまをご紹介します。

●案件 1. 第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)の諮問について

会長

案件 1「第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)の諮問について」、事務局より説明をお願いします。

事務局

本日、長内市長は公務のため、代わりに都市経営部次長から委員会に「第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について」の諮問をさせていただきます。

(都市経営部次長から会長に諮問書の手渡し)

会長

それでは、案件 2「策定スケジュール」を事務局から説明してください。

●案件 2. 策定スケジュール

事務局

第 2 回の委員会でご説明した時からスケジュールに変更点がございますので、ご説明いたします。また第 1 期まち・ひと・しごと創生総合戦略に対していただいた答申書についても簡単に振り返りをさせていただきます。

(「【資料 2】策定スケジュール」をもとに説明)

会長

ただいまのご説明についてご質問、ご意見はありますか。

(意見なし)

次に、案件3「第2期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略について」を事務局から説明してください。

●案件3. 第2期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
事務局

第2期総合戦略の考え方と、第2期総合戦略の重要目標達成指標(KGI)及び重要業績評価指標(KPI)についてご説明します。

(「【資料3】第2期豊中市総合戦略の考え方について」「【資料4】第1期総合戦略と第2期総合戦略のKPIの対応表」「【資料5】第2期総合戦略の基本目標の補足資料となる基本的方向性(施策の方向性)・具体的施策(主な取組み)の達成の進捗状況を測る指標(KPI案)」をもとに説明)

会長

この委員会で以前、総合計画と総合戦略の何が違うのかという議論がありました。この委員会で担うところは、人口ビジョンに基づいて行っていくものです。一方で、総合計画を見ている審議会もあるので、この委員会で幅広く同じことをやっていたら、わかりづらいと思います。

第2期の節目になりますので、私たちが議論しているこの委員会の役割をしっかりと定めた方がいいと思います。ですから、このような取りまとめをしていただいて、委員の皆さまに諮っていただければということから事務局にお願いをしました。特にKGIを設けるということにしても、最終的に見なければならぬのは、人口が増えたかどうかということと、これから先は社会人口増より自然人口増にもう少し目を向けた方がいいのではないかとということも前回の議論の中にあっただと思います。整理していくと最終目標として、この委員会で議論しなければならないポイントがどこで、それを実現するためにはどんな指標を途中経過としてチェックすることが必要なのかということ、皆さま方に議論をお願いしたいと思います。またこのKPIにつながる様々な指標も総合計画の中で指標をお持ちだと思いますので、それを拝見することで、KPIの達成度合いに効いているところがどこも見やすくしていくことが必要ではないかということもありました。

国が総合戦略の様々な交付金を出すにあたって計画をいくつも作りなさいというのは行政側にとっても負担感が大きいと思います。そこをすっきりすることで、この委員会の役割がどこにあるのかも整理したうえで、議論を進めた方がいいと思っています。これをたたき台として委員の皆さまのご意見をお伺いして反映していきたいと思っています。

ただいまの説明についてご質問・ご意見はございませんか。

委員

金融業の代表としての立場から考えると、この委員会では産業の部分で意見を求められているのだと思っています。最終的には数値化された客観性は非常に重要ですが、そこに至るまでの過程も大事です。例えば廃業率を今回新規の KPI として書かれています。前回の委員会でもお話をいただきましたが、廃業は個人の事情もあるので、行政としては止めることはできないという論点で終わったかと思います。状況が悪くて辞めていく会社がある一方で、状況が良くて経営もうまくいっている状態でありながら、後継ぎがないから辞めていく場合もあります。ここに対して私たちも力を入れていて、開業する方と廃業する方をつなぐ仕組みというのは、行政ができる切り口だと思います。KPI についてはあまり細かくしすぎる必要はないと思いますので必要ありませんが、中身の部分をいかに行っていくかが重要だと思います。開業・廃業については廃業する人と開業する人をつなげる施策を考えていくことが必要だと思います。

会長

(2)の「働く場をつくるまち とよなか」の部分では、事業承継のことが問題となっていますので、手を入れていかないといけないと思います。

委員

先ほど、事務局から説明もありましたが、総花的な計画ではなく、フォーカスして人口を増加させるという政策に関することをしっかりとこの委員会で見えていくことは非常にいいことだと思いますので、私は賛成です。先ほどの資料3「第2期豊中市総合戦略の考え方について」のところで今回の総合戦略は3年間と短めに設定されています。前の KPI もそうですが、KPI の数値は出ても経年的には見えづらい数字が結構あったと思います。そういう意味でも数字が形骸化しないように、例えば短期の目標と長期の目標という形でしっかりと分類することも重要ではないかと感じています。そうすることによって短期でここまでいこう、逆にここは3年間ではなかなか変わらないけれど、地道に行っていこうという形が明確に示すことができるのではないのでしょうか。目標はいろいろあり、すぐに成果が出る数字ばかりではないので、そのあたりの区別をすることは重要ではないかと考えます。

もう一つは、先ほどの答申の振り返りの部分でもありましたが、豊中市は地域の差が非常に大きかったと思います。その意味では、数字で全市レベルの推計人口と年少人口を KGI として出すのも必要ですが、地域によっては人口が増えるところもあれば、減少するところもあるので、それらをしっかりと把握することも重要です。KPI として、子育て世代と働き盛り世代にフォーカスを当てるのは非常に重要だと思いますが、地域の現状もしっかり把握することも、総合戦略で何を指すのかといった目的を考えたときには重要であると思います。例えば地域別の割合でもいいですし、この地域の数値が減っているから何とか維持しようという KPI も必要ではないかと思っています。

つまり、長期と短期の分類と、地域をしっかりと見る形をとることを意識してほしいと思います。せっかく KPI の数を減らすことで傾注すべき点をピックアップしているのです、より KPI の内容を充実させていただきたいと思います。

豊中市は自治体シンクタンクとして、とよなか都市創造研究所もあります。とよなか都市創造研究所では、市政に関するさまざまなリサーチをされているので、当該機関との連携を検討することはいかがでしょうか。これまでの答申書においても「要因分析をしてください」という記述もありますので。第 1 期の総合戦略では主に数字の変動に注目しがちでしたが、第 2 期の総合戦略では、それに分析を加えた形にすると短い計画期間でもより充実したものになるのではないかと思います。

委員

テレビの世界で例えると、毎日の視聴率を出しています。数年前までは、全世代の視聴率を平均して視聴率としていましたが、最近では 10 代から 53 歳までの視聴率も出して、それをもとに議論しています。さらに個人ではなく、ファミリーコアと呼ばれる家庭の中でどう見られているかに絞って数字を見るようになってきています。このようにターゲットを絞ることによって全く数字が変わってきます。高齢の方の世帯と働き盛りの世帯では、昼間家にいないなどテレビを見る条件が変わってくるので数字が変わります。これを見ると差の大きさに驚きます。そういう意味でも今回の総合戦略では、数値の取り方をはっきり絞って、人口増加としてポイントを絞ったことは非常にわかりやすいと思います。

また新しく基本目標(3)の「地域住民同士が支えあう環境があるからと答えた市民の割合」という KPI は、今までの議論で知りたいと思っていたポイントについても追加されているので、今後わかりやすくなるのではないかと思います。

先ほどの委員が仰ったように、実際にやってみてどうなるかはこれからだと思います。

会長

たしかにテレビの世界だとスポンサーに話を持ち掛けるときに重要になると思います。

委員

そのとおりです。どれだけ視聴率が高くても、ターゲットにしている世代が見ていないとスポンサーはつきません。

会長

住民の皆さんに対して、いろいろ発信しようとした時にも、今の委員のご指摘は当てはまると思います。昼間に一生懸命広報しても伝わらなくて、夜間に告知する方がスムーズにいくのかもしれませんが。

委員

後、放送でいうと録画でしか見ないということも考えられます。個々の都合に合わせた見方がありますが、録画についての数字は現在出ません。このような方がどう見ているのかも数字として出していかないといけないと思っています。

会長

同じことを行政でも考えるのは大変なことかもしれませんが、効果的・効率的に仕事が進んでいくきっかけになる可能性もあるので、ぜひチャレンジしていただければと思います。

委員

第2期総合戦略のところで、基本目標(1)の「住み続けたいと感じている市民の割合」や基本目標(4)の「子育てがしやすいまちであると感じている市民の割合」、基本目標(5)の「保育・教育環境が充実していると感じている市民の割合」のKPIがありますが、すべてプラスに感じている人を市民意識調査で聞いています。しかしどう変わっていくのかを見るときには、マイナスがどういうふうに変わっていったのかを定点観測していく視点もあっていいと思います。例えば、心配事がある、気がかりなことがあるということを知った場合に、当初の人数と比べて、イベントや施策を実行した後も同じような質問をすると、どれくらい減ったかが非常にわかりやすいと思います。KPIの質問もマイナスから見えてくる部分もあると思います。つついプラスで聞いてしまいがちですが、マイナスを聞くことによって何が足りないのかがわかります。さらに自由記述を入れるとこういったことが気にかかるという声を聞くことができ、それが次の施策をどうするのかにつながります。

そういう意味でも、自由記述を入れつつ、次にどういった施策を考えたらいいのかを打ち立てられるようなKPIにしていく必要があります。もちろん数字がどう変わるかを見ていくことも大事ですが、次につながるものと両立するような指標の聞き方もできるのではないかと思います。

会長

今のお話を聞いていて、例えば市外から豊中市に移り住んでくる人は、住むところを決める際にもその土地の移り変わりを意識してマイナス面を考えます。そう考えると、マイナスを言っている人の一つ一つの要因がわかってくることでサポートのあり方は変わってくると思います。何が良かったのかより、何が不足していたのかを考えた方が、他にはないサポートのあり方が見えてくる可能性があると思いました。

委員

資料4の基本目標(5)のKPIに「地域や社会をよくするためになにかすべきことがあると答えた児童・生徒の割合」がありますが、これはどういった割合なのでしょう。

事務局

この問いについては、毎年行われている小学校・中学校対象の全国学力・学習状況調査の中の児童生徒質問紙調査からとっています。基本目標(5)が「子どもが育ち・学び・社会で活躍するまち とよなか」であることから、社会をよりよくしたいと考えている児童・生徒が多い方がよいと思い、KPI に設定しました。

委員

これについても先ほどと同様、プラス面とマイナス面で考えることができると思います。例えば、今は社会全体がダメだから私が何かしようというパターンと、もう一つは自分たちがやりたいという気持ちがあふれていて何かしようというパターンがあると思います。前者はネガティブなパターン、後者はポジティブなパターンだと思います。

委員

私も、この問いが児童・生徒の主体性を聞くポジティブなパターンか、子どもながらに社会の課題を感じているネガティブなパターンか、どちらなのか気になりました。先ほどの事務局の説明を聞いていると、ポジティブなパターンだと感じました。

事務局

事務局としてはポジティブなイメージで考えていました。

委員

もしかしたら質問票によるのかもしれませんが。前後の問いの流れの中で、ポジティブかネガティブを判断できるかもしれないので、一度質問票を確認してみてください。私自身もネガティブなことを聞くのは重要だと思っていますので、教えていただければと思います。

もう1点は、第2期の総合戦略を考えるにあたっては、SDGsはどのように扱う予定ですか。

事務局

豊中市としても今年からSDGsに取り組んでいます。例えば第4次総合計画前期基本計画の17施策及び施策の方向性とSDGsのゴールを結びつけることを行いました。第2期の総合戦略を策定するにあたり、SDGsの考え方は取り入れたいと考えており、具体的施策にSDGsのゴールのロゴを入れたりしたいと考えています。

委員

タグづけも大事だと思います。ただSDGsが何かを考えたときに、それでは不十分かもしれない。先ほどの委員が廃業率は行政が関わりにくい課題であると仰っていましたが、同様に多くの社会課題の解決は行政だけでは達成できません。行政のみで解決が無理だからSDGsというゴールを設定することで、企業を含め、社会課題にみんなで取り組みましょうという啓発活動が生まれたという経緯があります。行政が今まで行ってきたことはまさにSDGsを目指す取り組みですが、それらのタグづけというより、企業や市民がSDGsを頑張る達成しようとしているところを後ろから支えることが、新たな行政の役割であり、SDGsの達成に向けての推進になると思います。すなわち、行政そのものがSDGsの達成に向けて頑張るといふより、一般の市民や企業がSDGsを推進するための基盤整備をする方が重要であると思います。例えば、教育分野では、ESDのように、市民を巻き込んでSDGsを推進するという仕掛けを作っていくということが、行政にとってのSDGsの関わり方の一つだと思います。その意味では、基本目標(3)の「地域住民同士が支えあう環境があるから」と答えた市民の割合」というKPIもSDGsの一つとして位置づけられるのではないのでしょうか。このようにKPIの中でもSDGsの基盤整備になっている項目を取り出すだけでも、SDGsの推進に効果があると個人的には思います。国が推進するSDGsについては、KPIの達成を通じて市全体のSDGsの推進が達成される環境になるというようなことを追加的に書いてもいいと思います。

委員

資料2の平成30年の答申の内容で「他市比較の方法も検討されたい」とありますので、先ほどの委員に関連しますが、視聴率が何%と言われてもその数字が高いのか低いのかわかりません。他の番組の視聴率と比較することによって初めて高いか低いかがわかります。今回の総合戦略でも北摂地域や豊中市に隣接する市の数値と比較したものもあっていいと思います。そうすることで、市民に発信する時のわかりやすくなります。

現状で他市の職員とこのような比較の話をする機会はあるのでしょうか。

事務局

まち・ひと・しごと創生総合戦略について直接お話をする機会はありません。しかし北摂地域の市が集まって一つの案件に対する状況や傾向を報告したりすることは、それぞれの部署で行っています。また大阪府が取りまとめた統計書として比較できるものもあります。

最近では、西宮市・尼崎市・豊中市・吹田市の同規模の4市が一緒に何かできないかということで、連携も始めています。

会長

他市比較については、その4市の間でも検討していただければと思います。それぞれの市に特徴があるので、比較すると差が出たりするかもしれません。

委員

例えば開業率だと、全国・都道府県・市町村で数値がわかると思いますので、他市比較はできると思います。

会長

皆さま、ありがとうございました。今いただいた意見を集約して、答申案の中に入れていきたいと思います。

それでは、案件4「その他」について、事務局から説明してください。

●案件4. その他

事務局

連絡事項が2点ございます。

(連絡事項の伝達)

先ほど委員の方から他市比較についてご意見をいただきました点について補足をしたいと思えます。

本日諮問させていただきました第2期総合戦略(素案)のP5をご覧ください。こちらで豊中市の人口について、出生・死亡数の自然増減の動向とP8からは転出・転入数の社会増減の動向の分析のイメージを掲載しています。まだすべての分析ができていないわけではありませんが、各地域の出生・死亡数や転出・転入でしたらどこから入ってきているのか、どこに出ているのかの割合を分析しています。また年齢別でも分析したいと思っています。

会長

それでは、これで豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会を閉会します。

ありがとうございました。

●閉会